

新「京地どり」の発育調査及び食味調査を実施

当センターでは、昨年度「京地どり生産・流通推進協議会」と連携して、生産コストを下げるため、発育のよい新「京地どり」の鶏種（♂大型軍鶏(しゃも)×♀横斑(おうはん)プリマスロック）を決定しました。

今年度からは、新「京地どり」の鶏種に適した飼料を決定するための試験に取り組んでおり、8月から発育、脂肪の付き具合に影響のある蛋白質量が異なる2種類の飼料を給与し発育を調査するとともに、10月には食味調査を行いました。

発育調査では、飼料の違いによる体重差はありませんでしたが、食味調査では、蛋白質量の多い飼料の方がやや歯ごたえがあり、嗜好性が高い結果となりました。

今後、脂肪の付き易い冬期にも同様の試験を行い、発育、肉質、食味調査の結果を元に、新「京地どり」に適した給与飼料を決定していきます。

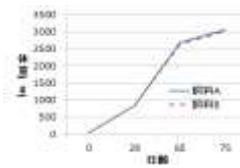
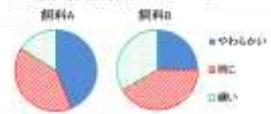


図. 体重の推移(雌雄131羽の平均)

飼料A：蛋白質量 16.5%
飼料B：蛋白質量 18.0%

Q. 普段食べている鶏肉と比べて歯ごたえはどうか。



Q. 飼料AとB、どちらの鶏肉が好きか。



食味調査アンケート結果 (回答数 24人)



当センター職員を対象とした食味調査

畜産センター

家畜人工授精師養成講習会の開催

京都府では、畜産経営にとって重要な技術者である家畜人工授精師[※]養成のための講習会を9月25日から10月23日までの20日間、開催し、府内の畜産後継者、関係者など8名が人工授精に必要な知識と技術を熱心に学びました。

当センターは、家畜の繁殖生理などの講義や精液注入器の取り扱い実習などの講師を務めるとともに、実習に用いる牛を提供しました。

受講者は、修業試験に合格し、知事に免許証の交付申請を行い、免許取得後、府内各地で生産者や関係機関の専門家として、優秀な子牛の生産を通して畜産振

興に貢献することが期待されます。

※家畜人工授精師:家畜改良増殖法に基づく国家資格。府県が講習会を開催し、試験に合格したものに知事が免許を与える



手探りで人工授精器具を操作する実習



牛を使った人工授精の実習

畜産センター

畜産セミナー「家畜伝染病防疫研修会」を開催

当センターでは高病原性鳥インフルエンザの発生シーズンを控え、ウイルスを鶏舎内に運ぶ危険がある野生動物の侵入実態と防除対策について10月12日に研修会を開催し、養鶏業者や関係団体など60名の参加がありました。

鳥取大学の山口教授からは鶏舎への野生動物の侵入に関する最新の情報や研究について解説をいただきました。畜産センターはネズミが入りやすい鶏舎構造と補強方法や効果のあったネズミ防除方法の説明を行いました。参加者からは「鳥インフルエンザウイルスは糞中でも長く生存できるのか」「鶏舎に活用できる具体的な防除技術であり広く周知すべき」など活発な質問や意見が寄せられました。

シーズンに向けて気を引き締めるとともに、野生動物の防除対策の重要性や具

体的な対策を共有し合う有意義な機会となりました。



防疫訓練など府の取組を説明
(渡邊広域防疫対策センター長)



最新の情報や研究について解説
(鳥取大学山口教授)



ネズミが入りやすい鶏舎構造と補強方法を説明 (当センター安富副主査)



効果のあった防除方法を説明 (当センター上羽副主査)

畜産センター

中学生が牧場の仕事を体験

当場では10月2日及び3日に京丹後市内中学校の2年生5名に対し、飼料の給与や牛の手入れといった牧場業務の体験学習の受け入れを行いました。生徒たちは慣れぬ作業に戸惑いながらも、皆熱心に取り組んでいました。

体験学習後、「生き物を育てることの大変さを知り、とても有意義な体験だった」、「健康な牛を育てるためには、多くの仕事があることがわかった」などの感想が聞かれ、生徒たちには貴重な経験を提供することができました。

当場は今後も畜産への関心を高め、興味を持ってもらうため、児童や生徒を対象とした体験学習の受け入れを積極的に行っていきます。



一頭ずつ牧草を給与



出荷前の子牛をブラシで手入れ

碓高原牧場